

												年 月 日		
												昭 19	昭 20	
10	9	8	8	8	8	8	8	7	5	5	8	7		
2	20	20	15	14	14	12	9	6	18	18	15	10		
<p>公主岑出発</p> <p>公主岑第一〇作業大隊に編入</p> <p>公主岑において武装解除</p> <p>公主岑において停戦</p> <p>転進命令により新京方面に移動</p> <p>龍江省大賚に移駐、同日大賚出発</p> <p>龍江省洮南に前進。陣地構築</p> <p>主力は、列車にて龍江省洮南に前進。陣地構築</p> <p>日「ソ」開戦により、大隊は第二中隊を開通に残置し、同地の警備</p> <p>以後同地付近の警備</p> <p>龍江省開通着。以後同地付近の警備</p> <p>列車輸送により、龍江省開通着。以後同地付近の警備</p> <p>河南省懷慶着</p> <p>河南省新郷集結</p> <p>滿洲移駐のため陽武出発。河南省新郷集結</p> <p>河南省懷慶着</p> <p>近の警備</p> <p>地支河南省陽武において独立歩兵第四旅団を基幹として編成完結。以後同地付近の警備</p> <p>軍令陸甲第七九号により編成下令</p>												概	要	
												摘	要	

独立歩兵第三九一大隊 略歴

通称号 弘第一五六二八部隊

66102

	昭 20
	10
	30
	黒河経由入「ソ」 隊長 大尉 西元 彌太郎

0339

昭 20						年 月 日	才一一七師団迫撃砲隊略歴 通称号 弘第一四九九部隊	
2								概
3								
1						要	摘要	
15								
22								
12								
下旬								
7								
上旬								
以後洮南附近の齎備						以後洮南附近の齎備		
現地応召者(一五〇名)編入						現地応召者(一五〇名)編入		
逐次龍江省洮南に到着						逐次龍江省洮南に到着		
満洲移駐のため、逐次清化鎮および焦作を出発						満洲移駐のため、逐次清化鎮および焦作を出発		
の齎備						の齎備		
騎兵第四旅団輜重隊より人員を補充(七一名)し、以後焦作、清化鎮付近						騎兵第四旅団輜重隊より人員を補充(七一名)し、以後焦作、清化鎮付近		
(二二一名)等より人員を補充						(二二一名)等より人員を補充		
第一一四師団の各独立歩兵大隊(八九名)および野戦重砲兵第六連隊						第一一四師団の各独立歩兵大隊(八九名)および野戦重砲兵第六連隊		
焦作(新郷西方)および清化鎮において編成完結(本報 三ヶ中隊)						焦作(新郷西方)および清化鎮において編成完結(本報 三ヶ中隊)		
第一一七師団の各独立歩兵大隊よりの差出し要員を主体として北支河南省						第一一七師団の各独立歩兵大隊よりの差出し要員を主体として北支河南省		
軍令陸甲第一八号により編成下令						軍令陸甲第一八号により編成下令		

0340

	9	9	9	9		8	8	8	8	8	8
	6	5	15	10		25	23	15	15	12	9
隊長 大尉 田岡真一	新京、出発、黒河経由入「ソ」	一部は新京において作業第八大隊に編入	公主嶺出発、黒河経由入「ソ」	主力は公主嶺において作業第一二大隊に編入	爾後主力は吉林省遼安縣農安まで行軍、同地より列車で公主嶺に到着	主力は前郭旗	列車輸送者は寛城子	一部は公主嶺	大資着、弱兵二二〇名は列車により新京に向かう、主力は行軍を続行	洮南を出発、新京に向かい行軍	日「ソ」開戦

0341

至自		昭		昭		年 月 日	概 要
20	2020	20	20	19	19		
9	8 11 9	9	8 8 8	7 7 6	8 7		
5	21 17 21	20	15 14 10	18 2 5	15 10		
<p>軍令陸甲第七九号により編成下令 河南省汲県において独立歩兵第四旅団よりの転入者を基幹として編成完結。 以後同地付近の警備 満洲移動のため、汲県出發 山海關通過 龍江省洮南着、同地付近の警備 洮南出發 大賚着同地において停戦 大賚を出發し寛成子を経て公主嶺に移動 公主嶺第九大隊（二〇〇名）同第一〇大隊（五〇名） 同第一一大隊（一五〇名）同第一三大隊（二〇〇名）に編入。 この間にそれぞれ公主嶺出發、黒河經由入「ソ」 約五〇名は、公主嶺出發、新京着 新京第八作業大隊に編入</p>							
							摘 要

第一一七師団工兵隊 略歴

通称号 弘第一五六二九部隊

0342

	昭 20
	9
	6
	新 京 出 発 入 「 ソ 」
	隊 長 大 尉 佐 久 間 成 夫

昭		昭		年		月		日		概	要	摘要
20	19	7	8	7	8	6	7	6	7			
9	8	8	8	8	8	7	6	6	8	7	10	
7	19	18	15	11	9	1	28	22	15	10		
<p>通称号 弘第一四七一部隊</p> <p>才一一七師団通信隊略歴</p> <p>軍令陸甲第七九号により編成下令</p> <p>北支河南省新郷において独立歩兵第四旅団を基幹として編成完結</p> <p>部隊移動のため新郷出発</p> <p>山海関通過</p> <p>龍江省洮南着</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>新京集結の命に接し、洮南出発</p> <p>大賚に向かい転進中停戦をきく、</p> <p>大賚に到着し同地から貸車輸送により新京に向かう</p> <p>新京に到着、同地において武装解除</p> <p>主力は、新京第九作業大隊に編入</p>												

0344

	11	10	10	10	10	9	9	9
	29	10	8	30	2	20	22	10
	黒河経由入「ソ」	奉天出發	その他の一部は、奉天第五八作業大隊に編入	黒河経由入「ソ」	公主嶺出發	一部は公主嶺第一〇作業大隊に編入	黒河経由入「ソ」	新京出發
隊長	大尉	大西源太郎						

0345

						昭 19	年 月 日
						8	7
						8	8
						8	8
						6	6
						6	6
						15	10
						15	11
						9	9
						30	9
						22	10
						19	10
<p>昭 20</p> <p>8 8 8 6 6 6</p> <p>15 11 9 30 22 19</p> <p>大賚——寛城子——公主峯に移動</p> <p>竜江省大賚において停戦</p> <p>洮南発</p> <p>日「ソ」開戦に伴い洮南西側陣地構築</p> <p>同地付近の警備</p> <p>竜江省洮南県洮南着</p> <p>山海関通過</p> <p>移駐のため開封出發</p> <p>以後同地付近の警備ならびに輸送業務</p> <p>第二中隊長 中尉 渡辺 篤</p> <p>第一中隊長 中尉 大原 貴</p> <p>隊 長 大尉 山中 勇</p> <p>河南省開封において独立歩兵第四旅団よりの転入者を基幹として編成完結</p> <p>軍令陸甲第七九号により編成下令</p>						概	要
							摘 要

第一一七師団軸重隊 略歴

通称号 弘第一五六三〇部隊

			昭 20	20
		11	10	8
		22	18	10
				20
	黒河経由入「ソ」	公主岑出発	吉林省公主岑において武装解除	
隊	長	大尉	に編入	
		山中		
		勇		

		昭19		昭20		昭20		昭20		年月日	第一一七師団野戦病院 略歴 通称号 弘第一五六三一部隊
		7	8	6	6	8	8	9	10		
		10	15	20	20	20	21	26	26		
隊長	軍医少佐	丹保	司平	<p>軍令陸甲第七九号により編成下令 河南省懷慶において独立歩兵第四旅団よりの転入者を基幹として編成完結 以後同地付近において病院業務に従事 満洲に移駐のため満支国境通過 竜江省洮南に到着 師団命令により吉林省公主嶺に移動 公主嶺において停戦 公主嶺において武装解除 公主嶺第四作業大隊に編入 公主嶺出発 黒河經由入「ソ」</p>							
				<p>概要</p>							
				<p>摘要</p>							

至自至自至自											年 月 日	第一一七師団病馬廠 略歴 通称号 弘第一五六三二部隊	
													概
昭 20	昭 19	7	8	6	7	7	8	8	9	10			
27	15	2	5	15	20	20	20	16	17	30	6		
<p>黒河經由入「ソ」 公主岑出発 公主岑第一〇、第一三作業大隊に編入</p>											<p>軍令陸甲第七九号により編成下令 河南省開封において独立歩兵第四旅団よりの転入者を基幹として編成完結 以後同地付近の警備 移駐のため開封出発 山海関通過 竜江省洮南着、同地付近の警備 洮南において停戦 吉林省公主岑において武装解除</p>	要	
<p>隊長 中尉 金田孝吉</p>													摘要

0349

昭										年 月 日	独立戦車第九旅団司令部略歴	
20												
至	自	至	自	至	自	8	8	8	8			7
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	通称号 満第五八三部隊 奮迅第三七六〇二部隊	
30	28	15	13	8	1	22	15	9	5	10		概要 軍令陸甲第一〇六号により編成下令 四平省四平において四平陸軍戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を 基幹として在満召集者をもつて編成完結 日「ソ」開戦とともに第四四軍の司令官の隷下となり頭初に逃南に於てその後 第三九師団（藤兵団）と四平付近において戦闘準備 停戦 四平揚木林において武装解除後同地の陸軍官舎に収容さる 四平第一、第五作業大隊に編入 四平出発 黒河經由入「ソ」
摘要												

0350

			昭
			20
	11	10	10
	26	22	10
	旅団長	黒河経由入「ソ」	旅団長、副官、部員の行動 新京特別将校大隊に編入 新京出発
	大佐	北	
	武樹		

0351

昭		至自 至自 至自										昭		年 月 日	戦車第五一連隊略歴				
20												20				通称号 番迅第三七六〇三部隊			
10	10	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7				税 要		
30	28	30	25	15	14	12	1	22	15	9	5	10	10	摘 要					
四平発、新京着 新京南嶺収容所において混成第二作業大隊に編入		黒河經由入「ソ」		四平出発		四平第一、第二作業大隊に編入		四平揚木林において武装解除後同地の陸軍官舎に収容		停戦		日「ソ」開戦			として在満召集者をもつて編成完結		四平省四平において四平戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を基幹		軍令陸甲第一〇六号により編成下令

0352

66902

	至 自 昭 昭 21 20
	1 11
	26 28
	黒河経由入「ソ」 隊 長 中 佐 堤 驥

0353

至 自 至 自 至 自										昭	年 月 日	戦車第五二連隊略歴 通称号 奮迅第三七六〇四部隊	
10	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7			概 要
30	25	25	13	12	2	22	15	0	5	10			
隊長	黒河経由入「ソ」	四平出発	四平第四、第五、第一二作業大隊に編入	四平揚木林において武装解除	停戦	日「ソ」開戦	として在満召集者をもつて編成完結	四平省四平において四平戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を基幹	軍令陸甲第一〇六号により編成下令				
少佐	中村正己												

0354

昭和20年									
年月日									
9	9	8	8	8	8	7	4	1	昭
10	7	20	14	13	12	下旬	10	16	20
<p>通称号 満第九四七部隊 速征第一四〇七三部隊</p> <p>独立速射砲第二九大隊略歴</p> <p>概要</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において歩兵第二五三、第二五四、第二五五各連隊よりの差出 人員を基幹として編成完結 海拉爾より龍江省洮南に移駐 第一一七師団長の指揮下に入る。 洮南西北方(約二〇村)五家子に向い前進 途中命令変更され洮南警備のため反転し洮南着 新京に転進(洮南より行軍にて泰来に前進、泰来より列車輸送により新京に 向う) 新京(寛城子)に到着、同地において武装解除 新京第九作業大隊に編入 新京出発</p> <p>摘要</p>									

0355

	9
	22
	黒河經由入「ソ」
大隊長	
少佐	
藤川文雄	

										昭和		年 月 日	独立野砲第一四大隊略歴									
										20	19			略 歴	通称号 満才四九〇部隊 速征才一四〇二三部隊							
										7 7 10	10					軍令陸甲才一三五号により編成下令。 興安北省海拉爾において才八国境守備隊よりの差出人員を基幹として編成完結。 先発隊海拉爾出発。 四平省昌図着。 主力海拉爾出発。 四平省昌図着。 爾後同地において陣地構築。 昌図において武装解除。 四平作業才一五大隊編入。 四平駅出発。 黒河經由入「ソ」。						
11	9	9	9	8	8	7	7	10	10	21	29	23	17	5	3		8	3	28	11	隊長 少佐 滝	熊太郎

0357

昭 16												年 月 日	野戦重砲兵第一七連隊略歴		
至 自 昭															
20															
9	8	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	7	7		通称号 遠征第一〇一三部隊
17	15	9	6	1	31	31	30	19	16	13	8	25	15	要	
<p>特隔編第一六令附第五九一一号により編成下令 千葉県国府台において編成完結 神戸港出帆 大連港上陸 大連発、関東州界通過 牡丹江省綏陽県綏陽着 移駐のため綏陽出発 牡丹江省寧安県石門子着、爾後同地付近の警備 第三軍司令官の隷下を脱し、第四四軍司令官の隷下に入る 石門子より四平省昌図に移駐、爾後同地付近の警備 昌図において日「ソ」開戦 昌図において停戦 昌図において武装解除、四平楊木林に収容さる</p>												要			
												摘要			

0358

		11	9	9
		21	29	25
				18
	連隊長	滿洲里經由入「ソ」	楊木林を出発	四平第一五作業大隊に編入
	大佐			
	本田			
	森			
	造			

										昭	年 月 日	野戦重砲兵第三〇連隊略歴 通称号 遠征第一四〇六三部隊																					
										20																							
11	11	10	10	10	9	8	8	8	8	7																							
											5	10	概	要																			
隊長										大佐 西谷常吉		摘要																					
満洲里經由入「ソ」										新京出発		新京、混成第五作業大隊に編入		新京着		開原を出発して新京に移動開始		開原において武装解除		停戦にともない開原付近の警備		白城子に転進準備中開原にて停戦を知る		日「ソ」開戦		結		七連隊、第六三師団関係からの転入者を基幹として現地応召者をもつて編成完		四平省開原において野砲兵第一〇七連隊、独立野砲兵第一四大隊、搜索第一〇		軍令陸(甲)第一〇六号により編成下令	

十二の外

0360

昭 20	年	独立重砲兵才六中队略歴	
月	日	通称号 速征第一四〇六六部隊	
日	日	概	要
8	7	軍令陸(甲)第一〇六号により編成下令	
8	8	四平省開原において、独立野砲兵第一四大隊、野戦重砲兵第三〇連隊、関東軍經理部、関東軍下士官候補者隊、関東軍野戦自動車廠等からの転入者をもつて編成完結	
8	9	日「ソ」開戦	
8	10	奉天省昌図県、昌図に転進準備中開原にて停戦となる。	
8	21	開原において武装解除、部隊解散	
6	5	「コロ」島經由、帰還	
至自 昭 21		隊長 中尉 植垣正夫	
			摘要

0361

昭 19													昭 20	至	自	昭	年	月	日								
7													8	9	9	9	3	3	3	3	6	6	8	8	8	9	上旬
29													31	22	23	24	7	8	11	16	17	18	12	15	20	9	上旬
軍令陸甲第一〇二号により編成下令													奉天省蘇家屯において編成完結	移駐のため蘇家屯出発	東滿総省延吉県境通過	間島省間島市に移駐	関総作命第五九八号により間島出発	滿支国境山海関通過	中文浙江省杭州着	滿支国境山海関通過	第四十四軍司令官の隷下に入る	八面城において日「ソ」開戦	奉天に移動、同日停戦	奉天において武装解除	奉天において第二〇作業大隊に編入	概要	摘要

電信第三一連隊略歴

通称号 遠征第一二九六八部隊

概要

摘要

0362

67602

	10 9
	5 14
大隊長	奉天出發 黒河經由入「ソ」
少佐	
西田伯三	

0363

第二遊撃隊略歴

通称号 満第五三部隊 遠征第一三九四四部隊

年月日	昭 19 6 5 30 16
概要	<p>当部隊の前身は、昭和十六年の関特演により関東軍司令部第二課の指導により昭和十六年九月四平省昌図において編成要員を満軍より臨時抽出し磯野部隊（隊長、満軍少校 磯野実一）を編成した。その任務は外蒙軍の侵攻に対し遊撃戦闘の展開にあつたが、出動することなく、訓練ならびに作戦準備を実施。昭和十八年三月興安兩省興安に移駐。移駐直後兵員の大部を除隊、一部の入替えを実施（注除隊者の一部を選抜し縁③工作隊員として国境付近の拠点構築作業に任せしめた）</p> <p>軍令陸甲第五五号により編成下令</p> <p>興安省興安において興安憲兵隊、同特務機関から差出人員を基幹として満軍（蒙系を含む）を加えて関東軍直轄部隊として編成完結</p> <p>編成</p> <p>本部</p> <p>中隊………五（内一は機関銃中隊）</p> <p>以後対象作戦の遊撃拠点の構築ならびに訓練の実施</p>
摘要	

677

0364

						昭 20
8	9	9	8	8	8	
11	17	16	12	10	9	
<p>第四四軍司令官の隷下に入る 日「ソ」開戦</p> <p>各中隊はそれぞれ準備した遊撃拠点に向かい展開し作戦行動に入る。</p> <p>部隊主力（本部、四中、楢中）の行動</p> <p>興安を出発以後次のとおり行動</p> <p>醴泉街（龍江省）↓土列茂杜（興安南省、科爾沁右翼中旗）↓魯北付近（興安西省）↓高力板（興安南省、科爾沁右翼中旗）↓孔家窩欄（通遼県）↓鄭家屯（通遼県）↓四平省開原に向かう</p> <p>開原に到着</p> <p>付近の山上において部隊解散（部隊長 自決）自由行動となつた各分離群は南下し、鉄嶺に至り、同地において越冬後、翌年帰国した者、さらに撫順に至り同地より帰国した者、また行動中「ソ」軍に捕えられ入「ソ」した者等多種多様である。</p> <p>一部（第一、二、三中隊）の行動</p> <p>第一中隊は興南街を出発醴泉街付近の遊撃拠点に向かう途中、蒙系満軍の反乱により、部隊は混乱しその後の行動状況は不明</p>						

十三の内

	8	8
	13	12
	<p>第二中隊は、興安出發察爾森（興安南省）に向かったが、第一中隊と同様の状況と推測されその後の行動状況は不明</p> <p>第三中隊は興安出發「ハンヌム」（汗廂）（興安西省？）の遊撃拠点に向かい出動したが、その後の行動状況は不明（同行の蒙系満軍が北方に反転し索倫（興安南省）方面に行動したという資料もあるが、確否については不明）</p> <p>隊 長 少 佐 松 浦 友 好</p>	

0366

		昭												年 月 日	第四七野戦道路隊略歴		
		19						18								概	要
至	自	20	19	8	8	8	3	3	5	5	8	8	7				
7	5	4	4	8	8	8	3	3	5	5	8	8	7	通称号 遠征第三六一九部隊 特臨編一六令附第一一四号により編成下令 通遼において編成完結 牡丹江省東寧着同日より同地付近の道路構築作業に従事 東寧出發 黒河省瑯瑯山神府着、同地において警備ならびに道路構築作業に従事 山神府出發 興安北省、海拉爾着 海拉爾出發 奉天省鞍山市着 鞍山被爆復旧作業に従事 同地出發 通遼↓開魯の沙漠地帯の道路建設作業	摘要		
30	3	28	3	13	8	5	23	20	10	6	8	5	16				

十四の外

0367

昭									
20									
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自
10	10	9	9	8	8	8	8	8	8
18	3	20	18	25	20	13	10	9	
<p>阿爾山伐採作業のため出動、作業地光頂山到着 奉天文官屯に移動命令により南下 文官屯到着 文官屯において武装解除 奉天第一二作業大隊に編入 奉天出發 黒河経出入「ソ」</p>									
<p>隊長 少佐 佐々木 林 吉</p>									

十四の内

0368

		昭 20		昭 16		昭 16		昭 16		昭 16		年 月 日	兵 站 勤 務 第 七 五 中 隊 略 歴 通称号 速征第一三八七部隊										
		7 7		7 7		8 7		9 9		9 9				概 要									
		10 10		10 10		15 10		2 2		2 2					摘 要								
		30 18		25 16		10 2		2 2		15 10		30 16											
隊 長		大 尉		秋 川		勝 彌		黒河経由入「ソ」		四平出発		四平第三、第四作業大隊に編入		四平において武装解除		四平において停戦		東安より四平警備のため、四平に移駐		東安において編成完結、同日より同地付近の警備		特臨編第一六令附一〇二号により編成下令	

0369

昭							昭	
21							20	
5		8	8	8	8	8	7	
7		28	25	17	0	5	10	
隊長 大尉 竹原秀三 蘆島経由で帰国した 大部の者は応召前の住所（鉄嶺、大連等）に帰還 同地において部隊解散 鉄嶺において武装解除 鉄嶺付近の鉄橋修理作業中停戦 日「ソ」開戦 爾後鉄嶺付近の警備		軍令陸甲第一〇六号により編成下令 奉天省鉄嶺において現地応召者を主体として編成完結 爾後鉄嶺付近の警備					通称号 遠征第一四〇六八部隊 独立自動車第一一二大隊略歴	
							概要 概要	

十五の外

0370

昭和													昭和	年 月 日	独 立 輜 重 兵 第 七 三 中 隊 略 歴 通称号 遠征第六七六六部隊	
20 19 18 17													16			
8	7	6	9	11	7	9	8	8	8	8	8	8	7			
13	21	10	5	3	25	1	30	29	26	21	19	4	16	日	概 要	摘 要
第三軍司令官の隷下を脱し第四四軍司令官の隷下に入る 四平省鄭家屯に移駐 同地出発													特臨編一六令附第一〇八ノ一号により編成下令 久留米市第五四部隊において編成完結 久留米出発 門司出帆 大連上陸 大連出発 関東州境通過 琿春到着 第二軍司令官の隷下に入る 第二軍司令官の隷下を脱し第三軍司令官の隷下に入る 間島省金蒼に移駐			

0371

	11	10	10	9	8	8	8
	30	9	7	1	25	15	14
隊長	黒河経由入「ソ」	奉天市出発	奉天第五七作業大隊に編入	奉天市北陵に移動	奉天市において武装解除	停戦	奉天市到着
大尉							
植村正直							

0372

												年 月 日		通称号 遠征第四六四〇部隊		建 築 勤 務 第 四 〇 中 隊 略 歴					
昭 20						昭 17												概		要	
8	11	11	7	6	2	2	2	8	8	8	8							8	7		
9	10	8	1	30	5	5	2	22	21	18	16	4	16	特臨編第一六令附第一〇二号により編成下令 金沢（東部第五三部隊）において編成完結 宇品港出発 朝鮮麗水上陸 鮮満国境通過 間島省汪清県金倉着 移駐のため金倉出発 興安北省境通過 興安北省索倫旗免渡河着 移駐のため免渡河出発 興安北省境通過、同日龍江省富拉爾基着 移駐のため、龍江省富拉爾基出発 奉天着 部隊主力は奉天より鄭家屯および五叉溝に前進準備中、一部は鄭家屯におい		摘 要					

0373

至 自	
10 9	9 9 8 8 8 8
15 30	4 3 30 20 15 18
中隊長	<p>て開戦となる</p> <p>部隊は奉天に集結すべく知家屯部隊は奉天に転進</p> <p>奉天に集結完了、同日市外転進のため奉天北方二〇料山小屯に移駐</p> <p>さらに奉天に集合</p> <p>奉天北陵において武装解除</p> <p>奉天第一七作業大隊に編入（改編し第一八、第二三作業大隊に編入）</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>
中尉	吳 渉

0374

至自													昭		年 月 日	特設陸上勤務第一二七中隊略歴 通称号 遠征第一四九五七部隊		
													20	19			概	要
8	8	8	8	8	7	6	6	5	5	3	1	1	12	12				
25	18	15	12	9	28	12	10	25			15	3	15	5			特臨編一九令第二二号により編成下令 三江省佳木斯において編成完結 佳木斯出發 北支河北省塘古到着、同地に駐屯 河南作戦に参加 北京に集結、同地付近の警備 北京出發 奉天省、范家屯に到着同地付近の警備 伐採のため三光山へ出發 日「ソ」開戦時三光山において伐採作業中 奉天に転進中文官屯着 文官屯において停戦後奉天に移動 奉天において武装解除 瀋陽景平羅堡に移動	
															摘要			

0375

昭				
20				
10	9	9	8	
15	14	10	27	
	黒河経由入「ソ」	奉天市出発	奉天市北陵に移動	奉天第一八作業大隊に編入
	隊長			
		中尉		
		中沢		
		異		

0376

昭 20														昭 16	年 月 日	患者輸送第五五小隊略歴 通称号 遠征才八二〇五部隊
8	8	8	8	7	9	9	8	8	8	8	8	7	7			
21	15	14	12	20	23	22	26	26	24	20	17	30	16			
奉天において武装解除、依然病院業務を続行。 停戦。 新京を経て奉天着、白城子陸軍病院の業務援助。 白城子発、白城子陸軍病院と行動を共にする。 海拉爾発、龍江省白城子着。 海拉爾着。 免渡河出發。 興安北省免渡河着。 興安北省界通過。 関東洲界通過。 大連港上陸。 神戸港出發。 京都、伏見において編成完結。 特臨編才一六令附才一二三号により編成下令。														略	歴	
														摘	要	

0377

	昭		
	21		
	5	5	10
	30	29	27
隊長 大尉 野中 享	奉天出発、コロ島經由帰還。	帰還のため病院を閉鎖。	奉天北陵に收容され一部中共軍に連行さる。

0378

昭	昭	至自	至自	至自	至自	至自	昭	年 月 日	才一九野戦兵器廠略歴	通称号 遠征第二六三六部隊			
19	17						16						
8	7	8	77	77	77	77	7						
		2	3029	2826	2523	2220	1916	16					
<p>特臨編一六令第一二八号により編成下令 青森県弘前（北部第二〇部隊）に要員を召集 弘前出発 神戸港出帆 大連上陸 興安北省海拉爾着 海拉爾において、関東軍野戦兵器廠の将校、下士官、軍属等を加えて編成 完結、同日より付近の部隊へ兵器、弾薬等の補給業務に従事 興安北省免渡河に出張所（長、少尉 植村敏）を開設、付近の部隊に対し、 担任業務を実施 興安北省、伊列克得に出張所（長、少尉 金本潤一）を開設、付近の部隊</p>									概	要			
									摘要				

0379

昭 20		昭 20	
8	8	7	10 9
9	4		
日「ソ」開戦後引続き、第四四軍隷下部隊に対し、兵器、弾薬等の補給に	興安南省通遼に支廠（長、中尉 新名恒安）を開設、担任業務を実施	に對し、担任業務を実施 興安東省、博克圖に支廠（長、中尉 東政吉）を開設付近の部隊に對し、担任業務を実施 興安東省扎蘭屯に出張所（長、少尉 吳野勘一）を開設、付近の部隊に對し、担任業務を実施 第四四軍司令官の隷下に入り、本廠の移駐にともない各支廠、出張所は、次のとおり移駐または新設、それぞれ現地において担任業務を実施	
	海拉爾殘留隊……………（本廠移駐後、要員殘留）	海拉爾本廠 → 四平本廠	
	博克圖支廠 → 洮南支廠		
	免渡河出張所 → 鄭家屯出張所		
	伊列克得出張所 → 德伯斯出張所		
	五叉溝出張所……………新設		
	四平本廠		

8	8	8	8	8	8	8		9	9	8	8	
22	18	15	14	13	12	9		13	3	20	15	
公主嶺着	孟家屯出発、公主嶺に向かう	同地において停戦	孟家屯に移動	新京に到着、同地の警備	警備のため、新京に向かい洮南出発	日「ソ」開戦後、担任業務の続行	洮南支廠	同地出発、黒河經由入「ソ」	四平編成の第五作業大隊に編入	同地において武装解除	四平において停戦	従事

0381

	9	9	8	8	8	9	8
	13	3	22	12	10	8	25
支廠長	支廠長	支廠長	支廠長	支廠長	支廠長	支廠長	支廠長
中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉	中尉
新名恒安	新名恒安	新名恒安	新名恒安	新名恒安	新名恒安	新名恒安	新名恒安
	同地出発、黒河経由入「ソ」	同地において四平第五作業大隊に編入	同地において武装解除、揚木林に移動	四平着、本廠に合流	本廠に合流のため、通遼最終列車により出発、大虎出→奉天を経由	黒河経由入「ソ」	同地において武装解除 公主嶺第六作業大隊に編入、同日同地出発、 黒河経由入「ソ」

					昭				
					20				
8	8	8		9	9	8	8	8	7
13	12	9		13	3	20	18	9	27
<p style="text-align: right;">鄭家屯出張所</p> <p>本廠の四平移駐にともない免渡河出張所員は、四平省鄭家屯に移駐 鄭家屯に出張所を開設中、日「ソ」開戦となる。</p> <p>第四四軍司令官の命により四平に向かい移動 四平着、本廠に合流、同地において武装解除 同地において第五作業大隊に編入 同地出発、黒河経由入「ソ」</p> <p style="text-align: center;">出張所長 中尉 田 中 嘉 重</p> <p style="text-align: center;">徳伯斯出張所</p> <p>日「ソ」開戦、担任業務を続行 洮南支隊に向かい撤退のため、徳伯斯出発 興安付近において「ソ」軍戦車と遭遇した際、金本少尉群と内藤伍長群に 分離、以後別行動</p>									

0383

至自					
10	9	9	9	98	8
12	21	20	10	1030	30
金本少尉群					
<p>分離後、哈爾濱に向かい行動途中、土民の襲撃を受け、針路を誤り、江橋（浜江省）を経て泰康（同上）に至る</p> <p>泰康に到着、同地において武装解除</p> <p>泰康において鉄道工事</p> <p>同地出発、北安に至る。北安において村上作業大隊（長、村上大尉）に編入</p> <p>同地出発、黒河經由、入「ソ」</p> <p style="text-align: center;">内藤伍長群</p> <p>分離後、興安→泰来（龍江省）→大賚（同上）→公主嶺に至る</p> <p>公主嶺において第一作業大隊に編入</p> <p>同地出発、黒河經由入「ソ」その他一部のは、公主嶺より四平に至り</p> <p>同地の第四作業大隊（昭和二十年九月二十五日四平発、黒河經由、入</p>					

							昭		
							20		
10	8	8	8		8	8	7		
20	31	29	28		13	1	初		
<p>小民屯（斉齊哈爾市外）において第一六作業大隊に編入</p> <p>音徳爾出発、興安を経て斉齊哈爾に至る</p> <p>同地において武装解除</p> <p>音徳爾に到着</p> <p>南省）に向かう。</p> <p>西口付近（興安東省）において、「ソ」軍と遭遇後、変針し音徳爾（興安</p> <p>第一〇七師団の新京転進にともない、同師団とともに五又溝出発、途中、</p> <p>海拉爾残留隊等から兵力を増強し、日「ソ」開戦に至る</p> <p>関東軍野戦兵器廠、斉齊哈爾支廠より兵器、弾薬を受領</p>							<p>出帳所長 少尉 金本潤一</p>	<p>五又溝出張所</p>	<p>「ソ」に編入、また、白城子―洮児河（渡河）―新京に至り、邦人として帰還、等その行動状況は区々であつた。</p>

昭 20							
9	9	8	8	8	8	7	10
18	3	22	11	10	9		26
四平出発、黒河経由、入「ソ」		揚木林（四平の北方）において第五作業大隊に編入		四平に至り、同地において武装解除		主 力 群	
		夜、博克圖（興安東省）において分離行動となる		全員、海拉爾出発、免渡河経由、四平に向かう		「ソ」軍の攻撃を受けた	
				本廠の四平に移駐後、幕田大尉以下約八〇名が残留し、担任業務を続行		海拉爾残留隊	
						出張所長 少尉 奥野 勘一	
						同地出発、満洲里経由入「ソ」	

<p>その他の群</p> <p>齊齊哈爾を經由、新京に至り、同地において武装解除後、同地編成の作業大隊に編入し、入「ソ」</p>	
隊長	幕田幸吉
大尉	
本廠長	与野山 寿
大佐	大佐 翠川 次保
大佐	大佐 今野 喜久造

0387